1945（昭和20）年8月6日
広島は一発の原子爆弾により
焼け野原になりました。

一瞬にして街は大混乱に陥り
多くの人が助けを求めましたが
その後起こった火災などによって
十分な救助活動は
できませんでした。

助けられなかった
という記憶が
戦後になっても
その人達を苦しめます。
体験記を通して
亡くなった方の無念さ
生き残った人々の苦悩を
お伝えしたいと考えています。
被爆者の「こころ」と「ことば」にふれて下さい。

加藤　義典さんの描いた絵

伊藤　貫一さんの描いた絵

写真：撮影／川本　俊雄（広島原爆被災撮影者の会提供）

しまってはいけない記憶

―助けを求める声を後にして―

期　間　平成19年4月1日（日）～平成20年3月31日（月）

展示会場　国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 情報展示コーナー

時　間　3月～11月 8:30～18:00（8月は8:30～19:00）／12月～2月 8:30～17:00

入場無料

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館企画展

加藤　義典さんの描いた絵

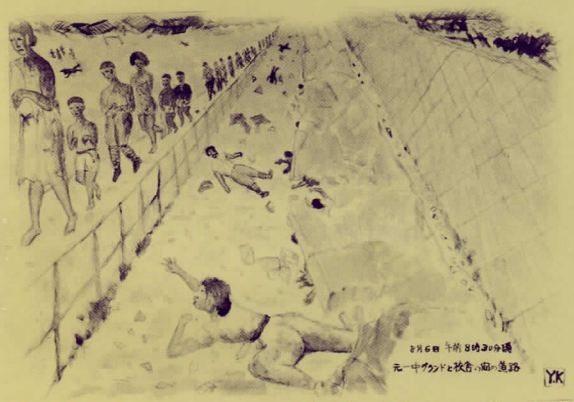
それらの動けない人々は、側を人が通る度に助けを、水を求めました。しかし、ほとんど無視されました。
皆、自分の事が精一杯で他人どころではなかったのでしょう。私のような少年にまで声をかけ助けを求めた人もいます。私とて、何とかしてあげたいと思っても、自分の火傷の苦痛、それに一刻も早く家族の所へと必死の身。「すみません。ボクも火傷をしています。無傷の大人の人に頼んで下さい」と言うのが精一杯でした。

大岡 卓二さんの体験記より

父の弟は、「姉さん助けて！」と母に何度も何度も呼びかけるのですが、昔の建物は柱など大きく、女の手では助け出すことができなかったと、ずっと先になっても悔んでいて、原爆の日がめぐってくるたび泣きくずれていました。

川口 喜久子さんの体験記より

香川　千代江さんの描いた絵



河野　安夫さんの描いた絵

鷹野橋の交差点付近には、熱線を浴び全身火傷を負い、露出していた肌は赤剥げとなり、黒く汚れた皮膚は大きく垂れ下がり、息も絶え絶えで助けを求めている年寄りや幼児が幾人ものたうちまわっていた。火勢が迫り、我身の逃げ場を求めざるを得ず、為す術もなく、無情にも涙ながらに合掌するのみであった。

栗栖 康二郎さんの体験記より

（写真及び絵画は広島平和記念資料館提供）

【開館時間】

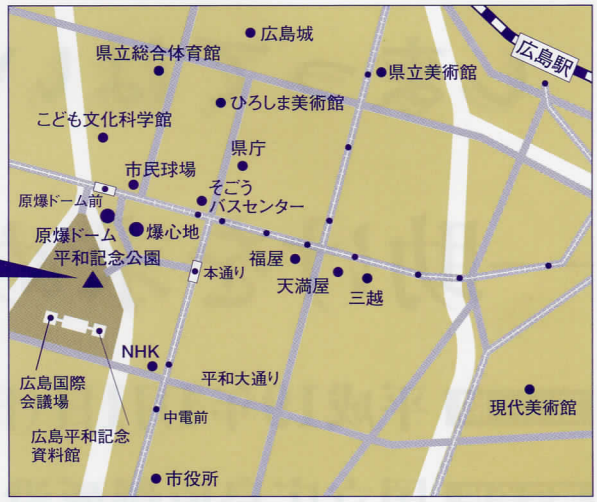
3月～11月……8:30～18:00（8月は8:30～19:00）
12月～2月……8:30～17:00

【休館日】年末年始（12月29日～1月1日）

入館無料

【交通案内】

JR広島駅（南口）から（約20分）
・バス/広島バス吉島方面行で「平和記念公園」下車
・市内電車/紙屋町経由広島港（宇品）行で「本通り」下車
　宮島口・江波行で「原爆ドーム前」下車
JR横川駅から（約10分）
・市内電車/広電本社前行で「原爆ドーム前」下車



【お問い合わせ】

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811　広島市中区中島町1番6号　TEL:082-543-6271 FAX:082-543-6273 ホームページ:http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/

当館では、被爆体験記と原爆死没者の氏名・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する資料などを展示し、原爆被害の全体像に迫ります。被爆体験記や原爆死没者の氏名・遺影をお寄せ下さい。ご遺族の皆様のご協力をお願いいたします。